

〈新生児聴覚検査のご案内〉

赤ちゃんのお耳のきこえの 検査を受けましょう!

生まれてくる赤ちゃんの1,000人のうち、1~2人は、生まれつき、きこえにくさがあるといわれています。

赤ちゃんのコミュニケーションと心の成長のためには、きこえの問題をできるだけ早く発見して、適切な支援をしてあげることがとても大切です。



Q1 どうして検査が大切なのか?

きこえの問題があるかどうかは、外見ではわかりにくいものです。

できるだけ早い段階で発見するためにも、「新生児聴覚検査」を受けて、耳のきこえを確かめましょう。鹿児島県では、ほぼすべての赤ちゃんが検査を受けています。

Q2 どんな検査をするのか?

赤ちゃんがぐっすり眠っている状態で小さい音を聞かせ、その際の脳の反応や、耳の中から反射してくる音を測定する検査です。数分間で安全に行える検査で、赤ちゃんが痛みを感じることはなく、検査による副作用もありません。

Q3 検査はどこで、いつ受けたらいいの?

検査は、出産後、入院中に産科医療機関等で行います。検査は、まず生後3日以内に行われ、その結果、確認が必要な場合はおおむね1週間以内にもう一度検査を行います。

鹿児島県では、分娩を取り扱うすべての医療機関等で検査が可能です。(裏面のQRコードをご参照ください。)

Q4 検査に必要な費用は?

検査費用は医療機関によって異なりますので、出産をする産科医療機関にお問合せください。

なお、鹿児島県ではすべての市町村で、費用の一部助成をしています。(市町村のお問合せ窓口は裏面のQRコードをご参照ください。)

※検査内容や結果にご不明・ご不安なことがある方は、お住まいの市町村窓口へ御相談ください。
(裏面のQRコードをご参照ください。)



赤ちゃんのきこえとことばの発達のためやす

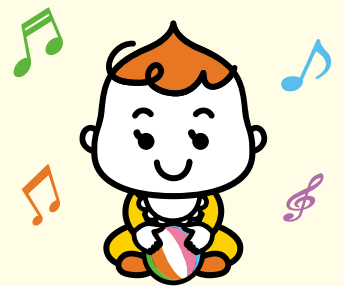
— 耳できいたことばを習得するためには、0～4歳頃までが大切な時期！ —

3～4か月頃

- ・あやすとよく笑う。
- ・見えない方向から声をかけてみると、そちらの方向を見ようとする。

6～7か月頃

- ・家族と一緒にいるとき、話しかけるような声を出す。
- ・テレビやラジオの音がしはじめると、すぐそちらを見る。



9～10か月頃

- ・そっと近づいて、ささやき声で呼びかけると振り向く。

1歳頃

- ・音楽に合わせて、体を楽しそうに動かす。
- ・大人の言う簡単な言葉がわかる。



1歳6か月頃

- ・ママ、ブーブなど意味のある言葉をいくつか話す。
- ・後ろから名前を呼んだとき、振り向く。

※上記の反応が見られても、片側のみできいていたり、小さくしかきこえていないことがあります。
 ※出産後、赤ちゃんのきこえに不安がありましたら、お住まいの市町村窓口へご相談ください。
 ※乳幼児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査でも問診による聴覚のチェックを行います。



〈関係機関一覧〉

鹿児島県内の新生児
聴覚検査実施医療機関



市町村窓口
(市町村母子保健担当課)



鹿児島県くらし保健福祉部子ども家庭課母子保健係

Tel 099-286-2775

<https://www.pref.kagoshima.jp/ae08/sinseizityoukakukensa.html>